

資産運用規程に基づき、中長期運用対象財産(運用期間 1 年以上)である、インターネット基盤整備基金資産の 2015 年度の運用状況につき報告を行うと共に、2016 年度における運用計画について、下記の通り進めることの承認を求める。

1. 2015 年度の運用の状況の報告 2016 年 3 月 31 日時点での基金資産の運用実績 *2015 年度決算値(時価評価)

(単位:円)

	資産残高	利息収益
2014 年度基金資産 a	1,283,445,145	13,180,452
2015 年度基金資産 b	1,258,494,316	13,960,606
増減 b-a	-24,950,829	780,154

*上記 増減の内訳 2015 年度 償還損: 570,000 評価損: 24,380,829

+ 償還損は、2014 年度末評価額と実際の償還金額の差額であり、2015 年度は資金の外部流失は伴わない

*外貨建て債券評価時の為替が、円高に推移したこと等により評価損が拡大した

*利息収益は未収利息を含む

2. 2016 年度運用計画の基本方針(従前通り)

資産運用規程に基づき安定的な財政基盤の一助とすると共に効率的な資産管理を行う。

- + インターネット基盤整備基金資産の運用収益は、インターネット基盤整備事業の財源として予算を構成しているため、年度中に確実且つ必要な資金を得られる計画とする
- + 計画に基づく適切な債券及び機会が得られなければ、次年度運用計画時まで銀行預金等で運用する

3. 2016 年度の運用について

(1) 運用可能額

以下の通り、今年度の運用可能額(預金等)は総額で 420 百万円となるが、例年通り、緊急時の法人運営に備え 100 百万円を現金預金として保持したい。残る 320 百万については、現状と将来の金利変動のリスクを鑑み、分散投資によるリスクヘッジを図るため、そのうち 150 百万円を今年度の運用可能額とする。

なお、残額 170 百万円については、次年度以降の運用原資として銀行預金で保有する。

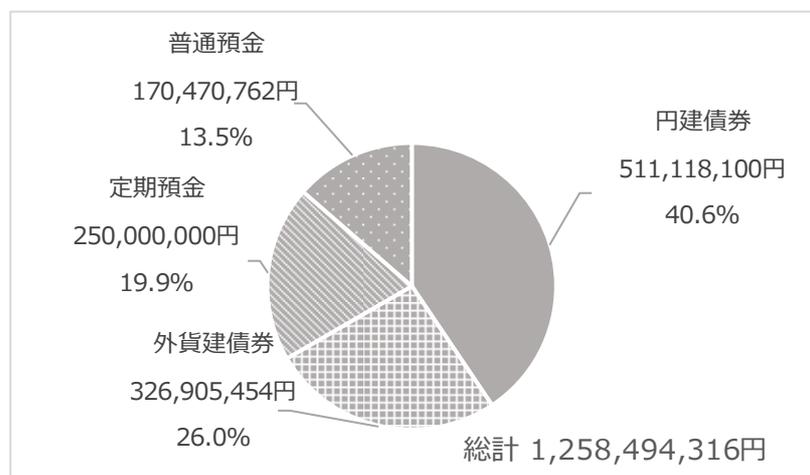
【補足】2015 年度末のインターネット基盤整備基金資産内訳(期末評価後)および運用額

(単位:円)

債券	円建	511,118,100	40.6%
	外貨建	326,905,454	26.0%
債券計(a)	-	838,023,554	66.6%
定期預金(b)	-	250,000,000	19.9%
普通預金(c)		170,470,762	13.5%
資産合計(a+b+c)		1,258,494,316	100%

(運用額)

運用可能額(b+c)	-	420,470,762	-
緊急の場合の資金(d) (2ヶ月法人運営が可能)	-	100,000,000	-
差引(b+c-d)	-	320,470,762	-
2016 年度運用額	-	150,000,000	-



(2) 運用の方向性

① マイナス金利(債券)への考え方

日銀による量的・質的金融緩和、2016年1月からはマイナス金利政策導入によって、現在10年国債以下の金利はマイナスであり、(超)長期国債(15年以上)も低金利で推移している。またこれまでの運用実績と将来的な金利の変動を考慮すると、リスクとリターンが見合う状況であるとは言い難い。

次に、2016年度予算においては、基金資産からの利息収益として20百万円を計上しているが、今のところ、既保有債券の運用により予算は達成できる見込である。

② 運用環境に即した幅のある計画

適切な金融商品があった場合または市況の変化(運用環境の好転)が生じた場合には、選定した金融商品に対し相対的な比較による個別判断を行い、以下計画案に示す優先順位での購入を検討することとする。

<2016年度運用対象 計画案>

以下運用対象の優先順位(A>B>C)の順にて適切な対象を選択する。但し、順位区分で適切な運用対象が無い場合は次の優先順位で検討し、最低の優先順位でも運用の機会が得られなければ、次年度運用計画時まで預貯金で運用することとする。また、運用する商品は元本が保証された円建の債券等に限ることとする。

(単位:円)

優先度	運用対象案区分	運用期間	購入予算額	備考
A	国内債券(公共・民間)	短期・中期・長期	150,000,000	・銘柄1~2を想定
B	外国債券(公共・民間・仕組)	短期・中期・長期		
C	金銭信託	短期・中期・長期		
計		-	150,000,000	

<参考:2016年度中に償還される債券及び償還金額見込み> (単位:円)

銘柄	償還日	償還金額
第18-6回千葉県公債	2016年12月22日	100,000,000
合計		100,000,000

*償還される100,000,000円については、運営資金の安定性を考慮し、来年度以降の運用原資とする。

4. 運用の原則的な考え方(従前通り)

- (1) 資産運用規程に規定される、債券(仕組債含む)を中心とし、複数の債券でのポートフォリオ運用(投資対象商品の分散、運用期間の分散、通貨の分散)を図ると共に取得価額の確保を目指す。
- (2) 外国債券における運用対象通貨はMMFでの設定が一般的な通貨とするが、その時点のリスク/リターンを勘案して決定する。
- (3) 債券の満期前の益出し、損切りについては、市場の情勢を注視し、資産運用責任者の判断により、特に必要な場合には検討を行う。

5. ポートフォリオ運用について(従前通り)

(1) 外貨比率

今年度の運用開始分を含め、基金資産全体の構成の内、預金及び円建債券/75%、外貨建債券/25%を目安とするポートフォリオを基本(過去計画と同じ)とする。

(2) 運用期間の構成

昨年度立案の計画同様に、構成する債券は最長20~10年と5年未満に2分し、バランスを重視したダンベル型のポートフォリオとする。

6. 運用体制(従前通り)

- 運用に関わる事務は総務部で主管する
- 計画に基づく債券の売買の判断は、理事長が行う(理事職務分掌権限規程に基づく)。
- 売買の経過や結果については、資産運用委員会へ報告する。

7. 運用に関する事務手続等

- 投資開始時期は5月18日(水)第113回理事会にて承認後速やかに検討を開始する
- 運用する債券は国内の証券会社3社の提案より選択し、購入する

8. 参考 インターネット基金資産の期末残高等推移表

(単位：円)

年度	期末残高/a	利息/償還益収益/b	表面利回り%(b/a)	備考
2004	969,825,906	6,603,668	0.68	2004年11月～運用
2005	983,439,639	28,026,913	2.85	
2006	1,085,280,970	38,075,111	3.51	
2007	1,121,022,907	45,912,203	4.10	
2008	1,218,487,016	29,929,625	2.46	償還2
2009	1,228,807,957	16,757,043	1.36	購入3、償還1
2010	1,214,488,386	21,359,115	1.76	
2011	1,239,625,082	19,057,176	1.54	償還1
2012	1,302,727,068	18,153,888	1.39	償還1
2013	1,294,095,880	27,492,829	2.12	償還1、償還益有
2014	1,283,445,145	13,180,452	1.03	購入1、償還3
2015	1,258,494,316	13,960,606	1.11	購入3、償還1

以上